

2018年5月1日

西宮つとがわY M C A 保育園 5月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節＞

入園、進級から1か月が経ちました。保育園では子どもたちが新しい生活・グループに慣れて少しずつかもしれませんが、心も身体も動き出す様子を見るようになりました。ご家庭ではいかがでしょうか？ まだまだ戸惑いや不安がある保護者の方もあるかもしれません。保育園では日中の様子を、担任がお話したりまたホームページや園での張り出しでお伝えしたりしています。また今月は保護者懇談の機会を持つ予定にもしています。こうした機会に子どもだけでなくおうちの方々ともつながりを深められればと思っています。

聖書の世界である古代イスラエルのルーツは遊牧民族でした。遊牧民族にとって羊は財産であり、生活のすべてでもありました。ですので聖書の中には羊と羊飼いを例えに用いた話が多数あります。今月の聖句もそうした例え話の一部です。「羊は羊飼いの声を知っているのについて行く。他の者にはついて行かない。その声を知らないからである。…私はよい羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。…わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。…こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。…」(ヨハネによる福音書 10章4節～16節一部抜粋)。

新入園児、とくにすずらん組やたんぼぼ組の子どもがこの1か月を振り返ると、最初おうちの方と別れるごとに大きな声で泣いていたのに、しばらくすると担任の先生に身を任せて抱っこしてもらいおうちの人を見送れるようになり、保育園を自分の場として、保育者を自分の内なる人として関係を結んでいく様子を見ることが出来ます。担任も子どもの泣き声を聞き分け、誰がどんなふうに泣いているのか、すぐに行ったほうがいいのか見守ったほうがいいのかまで分かるようになります。そんな個々のつながりが広がってひとつのグループへとなっていきます。子ども一人一人を大切なものとして名前を呼び、手をつなぎ、抱き上げる中で安心感や喜びが生まれ、その感情の交わりが信頼感を生んでいくこととなります。保育園は、すぐにつながれる子どももいれば、なかなか交わりを持つことができない子ども、いろんな個性がぶつかり合っています。子どもも保育者もおうちの方々もみんなが大きなつながりの中で成長し合える場となれるよう歩んでまいります。

5月の聖句 「わたしは良い羊飼いである」
＜ヨハネによる福音書 10章11節＞

5月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	感じる	感じる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 園の生活に慣れ、周囲の人や物に気づく * 保育者と一緒に遊んだり、散歩に出かける * 好きな遊びを見つける 	<ul style="list-style-type: none"> * 身近なものや人に関心を持ち、かかわる * 自分のやりたい遊びをする * ものや人と関わる中で、友達の思いや気持ち異なる事に気づく
讚美歌	ちいさいひつじが	